

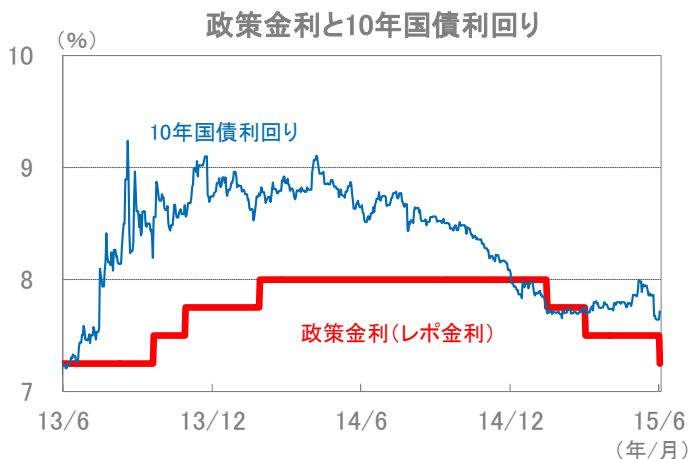
今日のトピック

インド中銀、今年3度目の利下げ

ポイント1 政策金利を7.25%に引き下げ

市場予想通り0.25%引き下げ

- インド準備銀行(RBI)は2日、市場の大方の予想通り、政策金利(レポ金利)を0.25%引き下げ、7.25%とすることを発表しました。利下げは、今年に入り1月と3月の臨時会合以来、3度目です。
- RBIは、物価の落ち着き、米国の利上げが後ずれする可能性、投資や信用の伸びが弱く景気が力強さを欠く状況などから、小幅の利下げが適切と判断しました。

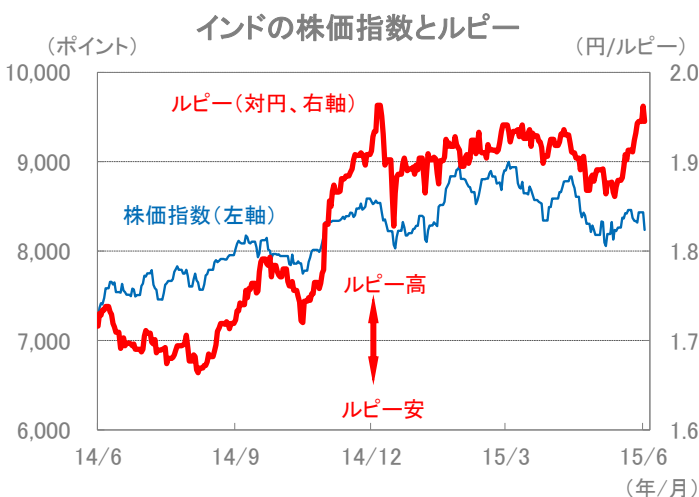


(注)データは2013年6月1日～2015年6月2日。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 追加利下げ期待が後退

RBIは少雨による物価高を警戒

- 利下げ発表当日のインド市場は、株式、債券、通貨がいずれも下落するいわゆるトリプル安になりました。背景には、RBIが少雨による農産物価格の上昇を警戒し、2016年1月時点の物価見通しを上方修正(前年同月比+6.0%、前回予想、同+5.8%)したことがあると見られます。
- RBIは、今後の金融政策は天候や原油価格の動向などを見極めながら決定する姿勢を示しました。市場では食品を中心とした物価の上振れと追加利下げ見送りの可能性が意識され、景気加速への期待がやや薄らいだ格好です。



(注)株価指数はインド CNX NIFTY 指数。
データは2014年6月1日～2015年6月2日。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政策効果による景気加速や、経済構造改革による物価安定に期待

- RBIは、これまでの食品流通管理の改善や、利下げによる市中金利の低下などを評価しています。こうした政策効果の浸透により景気拡大や物価安定への期待が強まれば、インドの株式、債券、通貨は持ち直しに向かうと思われます。
- RBIは、政府の投資は供給面の制約を緩和し、

中期的な物価抑制に重要と指摘しました。次期国会(7月から8月の予定)では、物品・サービス税(GST)導入や土地収用法など、構造改革関連の重要法案が審議される見込みです。与野党が対話に歩み寄りを見せており、これらの法案成立への期待も、インド市場を後押ししそうです。

ここもチェック! 2015年05月28日 世界の「投信マネー」5月はインド株式ファンド、日本株式ファンドが流入超継続
2015年05月27日 最近の指標から見るインド経済(2015年5月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。